台風 情報発信に難しさ

気象庁、「特別警報」予告も見送り

各地に暴風や猛烈な雨をもたらした台風10号は7日、九州の北に抜けた。甚大な被害も予想された中、気象庁は「特別警報級」と予告し最大級の警戒を求めたが、海水温低下の影響もあり、発表には至らなかった。難しい情報発信を迫られた気象庁の対応を専門家は「積極的に避難を促した」と評価しつつも、さらなる改善を求めている。（1面参照）

専門家、積極姿勢は評価

1日に小笠原近海で発生した台風10号は、平年よりかなり高い水温で勢力を拡大。気象庁と国土交通省は「特別警報級」と繰り返し強調し、5日夜の緊急記者会見で、6日午前に特別警報を出す可能性を予告した。

台風の特別警報は1959年伊勢湾台風級の中心気圧930ヘクパスカル以下、最大風速50メートル以上を基準に発表される。鹿児島県（奄美を除く）で発表されれば沖縄以外で初めてだったが、勢力が予報を下回り、発表は見送られた。

同庁などによると、台風10号の進路は2日に勢力を増しながら九州の西を進んだ台風9号に近い。9号が九州近海で海水をかき混ぜ、10号が通る時点で海水温が下がっていたことから、台風のエネルギー源となる水蒸気の供給量が減少し、台風は弱まっていった。

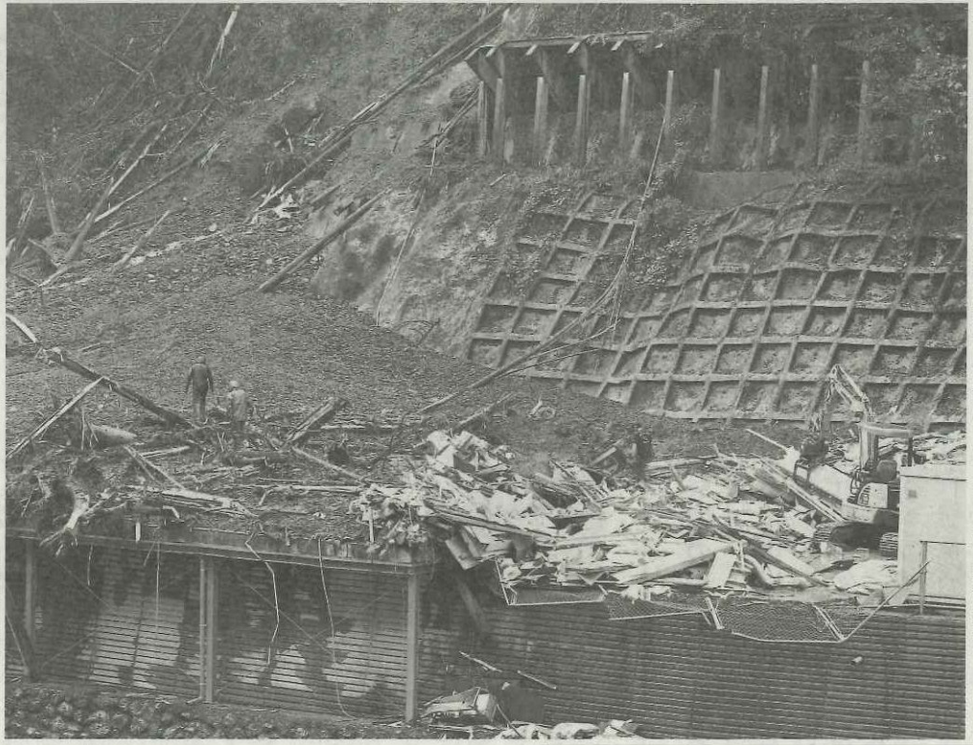
気象庁は難しい説明を迫られた。6日の記者会見で特別警報の見送りについて説明した気象庁予報課の中本能久課長は「安心要因と受け止めないで」と強調し、「引き続き最大級の警戒を」と20分間の会見で12回も繰り返した。

武田良太防災相も同日、臨時の記者会見を開いて「特別警報が出ていないからと気を緩めずに」と訴えた。

東京女子大の広瀬弘忠名誉教授（災害リスク学）は今回の台風10号を巡る気象庁などの情報発信について「インパクトがあり、積極的な情報発信で避難を促したこと自体はよかった」と評価した。

ただ特別警報の可能性を何度も示しながら発令に至らなかった点は「同じことを今後2回、3回は繰り返せないのではないか」と危惧する。「警報が外れる可能性があることを説明したうえで、直撃した場合に起こりうる具体的な事例を紹介した方が伝わりやすい」と話した。

気象庁によると、9月の平年の台風接近数は2・9個で、上陸数は0・8個。秋の台風シーズンはこれから本格化する可能性がある。



建設会社の事務所兼住宅が巻き込まれた土砂災害現場（7日、宮崎県椎葉村）

土砂が崩落、住宅覆う

宮崎・椎葉村 強い雨で捜索難航

山肌を滑り落ちた褐色の土砂が住宅を押しつぶし、すぐ下の川に流れ込んだ。住宅は跡形もなく、残骸とプレハブの倉庫だけが残る。男女4人が安否不明となった宮崎県椎葉村の土砂崩れ現場では7日、県警や消防団などが捜索を始めたが、断続的に降り続く強い雨が捜索を阻んだ。近所の住民は「こんなことになるなんて」と言葉を詰まらせ、無事を祈った。

崩落は幅20～30メートル、長さ約260メートル。積もった土砂からは多くの樹木が突き出ていた。山肌を濁った水が止めどなく流れ土砂崩れ防止用とみられるコンクリートが一部崩壊。轟音（ごうおん）を立てて流れる川。対岸の斜面からも泥水が噴き出し崩落したとみられる石が国道に散乱していた。

建設会社の事務所でもある住宅では、従業員らが重機を使って建物があった場所を掘り起こしていたが、二次災害の恐れがあるとして中断。警察官らは大量の木材や畳、風呂おけなどを手作業でかき分けていた。

村によると現場は、土砂災害が発生した場合、建物の損壊が生じて人命に著しい危害の恐れがある「土砂災害特別警戒区域」に指定されている。近所の椎葉史公さん（65）は「会社は昨年、今の場所に移転したばかり。こんなことになってしまうとは」と声を震わせた。

強風で飛ばされた民家のトタン屋根を片付ける人たち（7日、鹿児島県奄美市）

ピックアップ

都構想住民投票11月1日

大阪市選挙管理委員会は7日、「大阪都構想」の是非を問う住民投票について、10月12日告示、11月1日投開票とする日程を決めた。住民投票は僅差で否決された2015年5月に続いて2度目。賛成多数なら25年1月から新制度に移行する。投票用紙に「大阪市

ボート死亡事故 運輸安全委調査

福島県会津若松市の猪苗代湖でプレジャーボートが遊泳客4人を巻き込み、8歳男児が死亡した事故で、運輸安全委員会から派遣された船舶事故調査官3人が7日午後、同湖畔の中田浜で現地調

第5516回 数字選択式全国自治宝くじナンバーズ抽せん結果（7日）

【ナンバーズ3】

▽ストレート
793　103,500円
▽ボックス　17,200円
▽セットストレート　60,300円
▽セットボックス　8,600円

詐欺に注意。抽せん結果が事前